

第85号

行田市自治会連合会
広報部会

編集・発行

自治連だより

研修を経た想い — 自治会長研修 —

去る11月21日、合同会社フオーティR&C代表の水津陽子氏をお招きして「加入率低下、担い手不足の解消！自治会・町内会のお悩み解決、実践セミナー」と題して、都市部などで顕著となっている自治会への加入率低下の現状について、様々な視点から見直し策を例示していただきました。



そのコアな部分は、老若男女が主体的に活動できる場となるように従来の運営を見直していくことです。そのためには、自主財源づくりによる会費負担感の解消を図ること。会長、副会長などの役員による上から目線ではなく、フラットな組織にしていくこと。地域とつながる様々な企画（コミュニティカフェや子育てサロンの開催）をし、仲間づくりから担い手育成へとつながっていくことなどが必要となってくるということです。

しかし、近頃では個人情報保護の観点から個人情報が共有することが困難になっているため、防災防犯面

では弱点を露呈する結果となっているようです。ご近所つながりから「近所の目と耳で「互近所の力」を向上することが出来るので、結果として安全安心な地域づくりができるのではないのでしょうか。

「自治会加入のメリットはあるのだろうか」との問いかけが頻繁にあるようですが、地域の安全安心が守られた生活こそが最大のメリットではないでしょうか。

終わりに、それぞれの自治会運営が円滑に行われ、各々の世帯から「互近所の力」が大きな輪となることを願います。ぜひしたいと思います。

研修部会員 橋本 好司



東日本大震災で被災した白河小峰城の視察



水津 陽子 講師



セミナーの様子



一夜にして泥水

秋晴れの11月6日、行田市自治会女性部連絡会の60名の皆さんと、台風19号の爪痕が残る利根川水系の「八ッ場ダム」を見学しました。

10月1日に試運転を開始した「八ッ場ダム」のお陰で、利根川が氾濫しなくて済んだという話を聞き、泥水で満たされている巨大なダムを見た時、ダム湖に沈んだ町の人々の思いを無駄にしない、命を守るための公共事業の必要性を実感しました。

帰りには、地方創生の成功モデルとなっている「川場田園プラザ」を見学し、有意義な研修会となりました。

行田市自治会女性部連絡会
副会長 大河原敏子

自治会女性部連絡会
日帰り研修報告

「まちづくり元氣創出事業」の新規事業を紹介します

行田市自治会連合会では、地域の課題を、自らの手で解決し、自治意識の高揚を図るため、「まちづくり元氣創出事業」を実施しています。

日々、目まぐるしく変化する社会情勢や住民ニーズに対応するため、当連合会では、議論を重ねたところ、前号でもお伝えしたとおり、今年度から「防災をテーマとする事業」を新規事業として取り組むこととしました。

そして、今年度は2月7日に行われました「防災公開講演会」の他、各地区自治連による防災訓練事業と防災研修事業を始めました。

活発な自治会活動からまちを元気にしていくため、そして行田市における「自助」「共助」の力を高めるために、皆様も地区で行われている防災訓練や研修に是非ご参加ください。

今号では既に実施をした、星河地区と下忍地区の様子を紹介いたします。

星河地区防災訓練を実施

昨年、台風15号及び台風19号により、埼玉県で甚大な被害を受けたことは、記憶に新しいところです。行田市においても多大な被害を受けた地区があり、お見舞い申し上げます。

今年度の行田市自治会連合会の重点取組として、各地区での全体防災訓練を実施することになっています。星河地区全体防災訓練の様子を左記に報告します。参考になれば幸いです。

日時 令和元年10月9日(水) 9時～11時半

場所 星河公民館ホール、館庭

主催 星河地区自治会連合会

参加者 自治会長及び役員、各クラブ代表、体育協会役員、交通安全協会、防犯協会、赤十字指導員等、120名

内容 講演30分、訓練(起震車、簡易担架組立、三角布の扱い)炊出し等約2時間

費用 5万円超

他、赤十字の冊子、支給されたホイッスル、寄付米30kg

以上が、概要です。今後に向けての課題として、訓練規模、内容、開催時期等があります。特に、利根川と福川の合流箇所が決壊による大洪水への対応を想定しますと、地震だけでなく洪水の防災訓練も考慮する必要があります。訓練を継続することにより、防災意識を維持・向上する取組が重要であると思います。

星河地区自治連 会長 河辺孝幸



訓練に取り組む参加者

下忍地区防災訓練を実施

令和元年11月30日(土)に下忍地区、5自主防災会及び下忍公民館共催防災訓練を99名の参加を得て実施しました。1部は行田市防災安全課による「災害に強い安全なまちづくり」DVDと講演(45分)。

次に社会福祉協議会による、ハイゼックスを使用した節水炊飯方法の講座と実演(15分)。2部は避難所に於ける設営及び体験の訓練を長雨と大地震の設定でのシナリオにより実施しました。(60分シナリオを箇条書きにしてみました) ①避難者の点呼確認と救護。 ②防災用品の配布と避難者への内容説明。 ③避難場所の分割方法の演習(体育館を糸ひもやポリエチレンテープで8分割)。

④避難場所の居場所作成と保温材シートや、ブルーシートで緩衝対策演習。 ⑤停電時用の発電機で点灯、及び携帯、電子機器への充電対策演習。(体育館天井灯消灯) ⑥ハイゼックス実演で炊き上がった、ご飯の試食。

⑦炊出しによる、2種類のおにぎりづくりと配布演習及び試食。 ⑧猛烈な台風時のガラス窓の

破片の飛散防止の為に、段ボールによる補強演習。

⑨簡易トイレ(段ボール製)設置演習。

⑩携帯ラジオで被害状況を流す。 ⑪行田市防災安全課の講師では「とても本格的な防災訓練で良く出来た」との評価を頂きました。

以上が今回の訓練の内容ですが何分、初めての取組なので今後も実践的な防災訓練を目指したいと思っています。

最後に訓練に多数の皆様にご参加頂き感謝申し上げます。又、下忍地区全ての役員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

下忍地区自治連 理事 鷺見繁樹



多くの方が参加した研修事業



行田ふれあいポタリング&ウォーキング2020

行田市自治会連合会主催「行田ふれあいポタリング&ウォーキング」も早や6年目(6回目)を迎えます。単位自治会においては、夏祭り、敬老会、体育祭など独自の視点で活発に運営をされている中、行田市自治会連合会としても、

なにか地域の皆様に喜んでいただける事業はないものかと案を巡らせ、行田市の地域おこしや、地域の皆様の健康維持にも繋がるイベントをやってみようということで阿久津会長のもと、2015年にポタリングだけのイベントとして開始しました。その後、ウォーキングも加え、今のポタリング&ウォーキングの形になり、また観光ボランティアの方による、さきたま古墳群や足袋蔵の観光案内を取り入れたものも行っていました。参加者も僅かずつですが増えてきております。市外からは熊谷、鴻巣を中心に秩父や深谷などからも来ていただき、全体の25%を占めています。コース

の設定や距離、開催時期などアンケートを実施した結果「良かった」が半分以上を占め、「普通」を加えると80%以上になりました。実行委員会としては、さらに参加者が増えるよう頑張つてまいりたいと思っております。

これからのコースとしては、ポタリングは自転車、ウォーキングは歩いて、歴史のまち行田を楽しみながら探索していただき、整備された「水辺の遊歩道」を活用し、行田市を代表する史跡や観光名所を巡る予定です。

今回の「行田ふれあいポタリング&ウォーキング2020」では、ポタリングは、行田市バスターミナルを出発し、忍城址、利根大堰、古代蓮の里、さきたま古墳公園を走る30kmのコースです。一方ウォーキングは、バスターミナルから、忍城址、水城公園、さきたま緑道、さきたま古墳公園、忍川沿い、童の銅人形通りを歩く10kmのコースで行います。

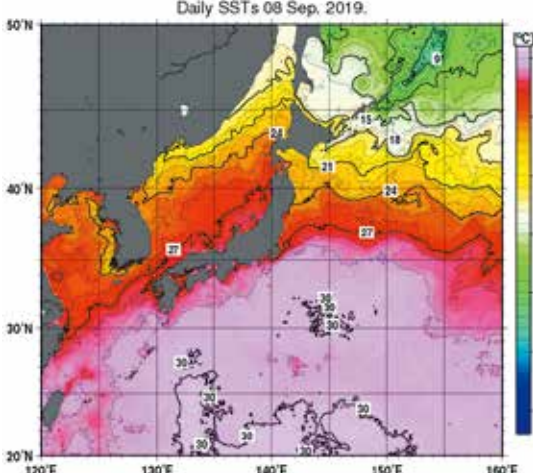
今回の「行田ふれあいポタリング&ウォーキング2020」では、ポタリングは、行田市バスターミナルを出発し、忍城址、利根大堰、古代蓮の里、さきたま古墳公園を走る30kmのコースです。一方ウォーキングは、バスターミナルから、忍城址、水城公園、さきたま緑道、さきたま古墳公園、忍川沿い、童の銅人形通りを歩く10kmのコースで行います。

今回の「行田ふれあいポタリング&ウォーキング2020」では、ポタリングは、行田市バスターミナルを出発し、忍城址、利根大堰、古代蓮の里、さきたま古墳公園を走る30kmのコースです。一方ウォーキングは、バスターミナルから、忍城址、水城公園、さきたま緑道、さきたま古墳公園、忍川沿い、童の銅人形通りを歩く10kmのコースで行います。



コース各所に設置されたチェックポイント

参加者全員に記念品、そして見事ゴールした方には完走(完歩)証を差し上げます。さらにお楽しみ抽選会も実施します。どうぞ奮つてご参加ください。この機会にたくさんの方に行田を訪れていただき、行田の歴史や文化に触れ、春の一日を存分に楽しんでいただきたいと思います。最後にこのイベントが地域の皆様に永く愛され、まちの活性化に貢献できれば幸いです。皆様のご参加よろしく申し上げます。



台風15号 9月8日の海面温度(気象庁データより)

実行委員長 古沢勇治

エコなくらし スーパー台風と地球温暖化

台風15号による千葉県の
大災害や、台風19号では関東
地方の被害が大きく、行田市に
おいては、床上・床下浸水に
見舞われ想定外の異常気象現
象が、最近多発しました。
要因として地球温暖化によ
る、海水温の上昇も一つの要
因と言われており、海水温が
上がれば台風(雨・風)
は強くなる傾向にあります。
温暖化の傾向は我々の身近
に感じる事が多い。例えばミカ
ンの生産地北限が北に移動し
ており、品種改良も有ります
が、行田の家の庭で
も美味しいミカンが
育ちます。昔は秩
父の波久礼の小さ
くて酸っぱいミカン
しか出来なかった
と思います。さらに
冬の諏訪湖の御神
渡り(氷が張り寒
暖差によって割れて
盛り上がる現象)
が毎年の様に見ら
れましたが現在で
は殆ど見る事が出

来ません。
約70億の人が日本と同じ豊
かな暮らしを望んでいます。
どんな状況になるのか、わか
りません。次世代が心配です。
大量消費・大量廃棄の時代
を見直す時期にきています。
賢いエコを行う事により
『温暖化防止』となり、ひい
ては『異常気象の発生防止』
に寄与する事に成ります。

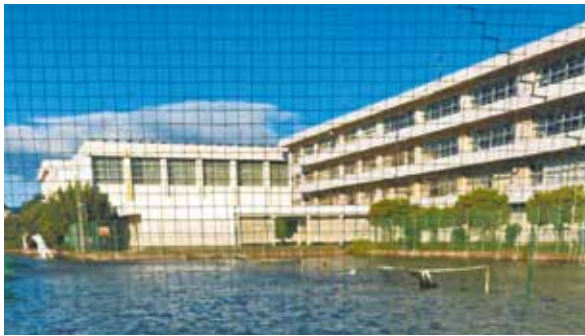
台風19号関連記録

令和元年10月12日(土)、日本列島を襲った台風19号は、行田市市内にも大きな爪痕を残しました。

行田市自治会連合会でも、「各地区の防災対策を充実させ、市民の防災意識を高める」ということを、事業計画の重点実施事項に掲げています。今号の「自治連だより」では、当時の状況写真を、その一部ですが、掲載します。市民の皆様への防災意識向上の一助となれば幸いです。



10月13日(月) 忍川の様子(佐間3丁目 野合橋から南を撮影)



10月13日(月) 行田中学校の様子



10月13日(月) 忍川の様子(佐間3丁目 野合橋から北を撮影)



10月13日(月) 堆積する稲わら(下忍地内で撮影)



10月13日(月) 行田中学校 校庭の様子



10月13日(月) 忍川の様子(堤根・樋上境 青柳橋から撮影)



10月13日(月) 樋上地内から 下忍小学校を撮影

編集後記

昨年(令和元年)は日本全国で、多くの自然災害が発生し多数の方々が亡くなり、甚大な被害もございました。「50年に一度」「今までに経験したことがない」「想定外」等々を度々耳にしました。すでに何十年に一度ではなく、日常的に発生することも考えられ、不安を感じている方も多いのではないかと思います。

行田市でも、昨年10月に発生した台風19号により、床上・床下浸水に見舞われましました。この台風では、避難を促す緊急速報メールを数回受信しました。これにより、各避難所はかなりごった返して、一部避難所では受け入れを断られたところもあった様です。自治会としてもどう行動するか、苦慮したのではないかと思います。基本的には自己責任で行動するとしても、自治会という脆弱な素人集団が、自然災害にどう対峙(たいじ)しているのか、考えてしまいます。「災害は忘れたころにやってくる」ではなく「災害は毎年のようにやって来る」にならないことを願うばかりです。

広報部会員 渋谷 茂